

6C5年数学Ⅱ【三角関数】5月22日課題（応用）

- ① 2次方程式 $5x^2 - 7x + k = 0$ の2つの解が $\sin \theta$, $\cos \theta$ であるとき、定数 k の値と $\sin^3 \theta + \cos^3 \theta$ の値を求めよ。

$5x^2 - 7x + k = 0$ の2つの解が $\sin \theta$, $\cos \theta$ であるから、解と係数の関係により

$$\sin \theta + \cos \theta = \frac{7}{5} \quad \dots\dots \text{①}, \quad \sin \theta \cos \theta = \frac{k}{5} \quad \dots\dots \text{②}$$

①の両辺を平方すると $\sin^2 \theta + 2\sin \theta \cos \theta + \cos^2 \theta = \frac{49}{25}$

よって $1 + 2\sin \theta \cos \theta = \frac{49}{25}$ これに②を代入して $1 + 2 \cdot \frac{k}{5} = \frac{49}{25}$

ゆえに $k = \frac{12}{5}$ これを②に代入すると $\sin \theta \cos \theta = \frac{12}{25}$

よって $\sin^3 \theta + \cos^3 \theta = (\sin \theta + \cos \theta)^3 - 3\sin \theta \cos \theta (\sin \theta + \cos \theta)$
 $= \left(\frac{7}{5}\right)^3 - 3 \cdot \frac{12}{25} \cdot \frac{7}{5} = \frac{91}{125}$

- ② 2次方程式 $3x^2 + 4x + a = 0$ の2つの解が $\sin \theta$, $\cos \theta$ であるとき、定数 a の値を求めよ。また、2つの解を求めよ。

解と係数の関係から

$$\sin \theta + \cos \theta = -\frac{4}{3} \quad \dots\dots \text{①}, \quad \sin \theta \cos \theta = \frac{a}{3} \quad \dots\dots \text{②}$$

①の両辺を平方すると $(\sin \theta + \cos \theta)^2 = \left(-\frac{4}{3}\right)^2$

$$\sin^2 \theta + 2\sin \theta \cos \theta + \cos^2 \theta = \frac{16}{9}$$

$\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ と②から $1 + \frac{2}{3}a = \frac{16}{9}$

よって $a = \frac{7}{6}$

これを与えられた方程式に代入して整理すると $18x^2 + 24x + 7 = 0$

したがって、2つの解は $x = \frac{-4 \pm \sqrt{2}}{6}$

$-1 < \frac{-4 \pm \sqrt{2}}{6} < 1$, $\left(\frac{-4 + \sqrt{2}}{6}\right)^2 + \left(\frac{-4 - \sqrt{2}}{6}\right)^2 = 1$ で条件を満たす。

6C5年数学Ⅱ【三角関数】5月22日課題（応用）

- 3 (1) $\sin \theta + \sin^2 \theta = 1$ のとき、 $1 + \cos^2 \theta + \cos^4 \theta$ の値を求めよ。
 (2) 4つの数 $\sin 0$, $\sin 1$, $\sin 2$, $\sin 3$ の大小を不等号を用いて表せ。

(1) $\sin \theta + \sin^2 \theta = 1$ から $\sin \theta = 1 - \sin^2 \theta$

よって $\sin \theta = \cos^2 \theta$

したがって $1 + \cos^2 \theta + \cos^4 \theta = 1 + \cos^2 \theta + (\cos^2 \theta)^2$
 $= 1 + \sin \theta + \sin^2 \theta$
 $= 1 + 1 = 2$

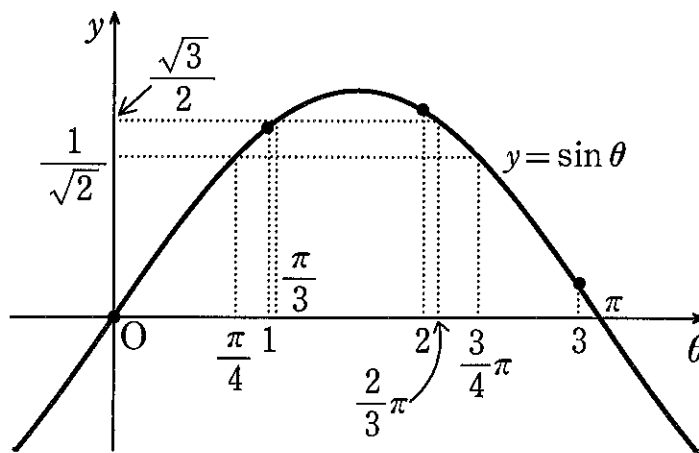
(2) $\sin 0 = 0$

$\frac{\pi}{4} < 1 < \frac{\pi}{3}$ であるから $\frac{1}{\sqrt{2}} < \sin 1 < \frac{\sqrt{3}}{2}$

$\frac{\pi}{3} < 2 < \frac{2}{3}\pi$ であるから $\frac{\sqrt{3}}{2} < \sin 2 < 1$

$\frac{3}{4}\pi < 3 < \pi$ であるから $0 < \sin 3 < \frac{1}{\sqrt{2}}$

よって $\sin 0 < \sin 3 < \sin 1 < \sin 2$

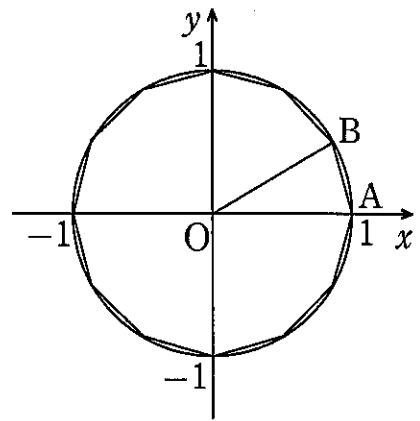


6 C 5 年数学 II 【三角関数】 5月22日課題 (応用)

4 右の図のように、半径 1 の円に正十二角形が内接している。

- (1) 1 辺の長さ AB を求めよ。
 (2) 円の直径に対する正十二角形の周の長さの割合を
 小数第 1 位まで求めよ。

ただし、 $\sqrt{6} = 2.449 \dots$, $\sqrt{2} = 1.414 \dots$ とする。



(1) 正十二角形であるから $\angle AOB = \frac{360^\circ}{12} = 30^\circ$

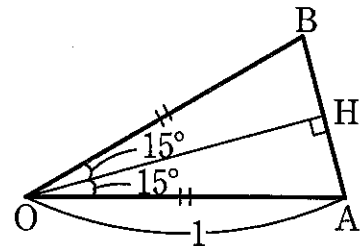
点 O から線分 AB に下ろした垂線を OH とすると

$$\angle AOH = 30^\circ \div 2 = 15^\circ$$

よって $AB = 2AH = 2 \cdot OA \sin 15^\circ = 2 \sin(45^\circ - 30^\circ)$

$$= 2(\sin 45^\circ \cos 30^\circ - \cos 45^\circ \sin 30^\circ)$$

$$= 2\left(\frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{1}{2}\right) = \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{2}$$



(2) $\frac{\text{正十二角形の周の長さ}}{\text{円の直径}} = \frac{\frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{2} \times 12}{2 \times 1} = 3(\sqrt{6} - \sqrt{2})$
 $= 3(2.449 \dots - 1.414 \dots) = 3 \times 1.035 \dots$
 $= 3.10 \dots$

したがって、求める値は 3.1